

平成28年度 ESD 研修会 広島県ユネスコ ESD 大賞表彰式 開催要項

期日：平成28年12月10日（土）

場所：広島大学 L205

主催（共催） 広島県ユネスコスクール連絡協議会
広島大学 ESD ユネスココンソーシアム
広島県ユネスコ連絡協議会
国際地球理解年（YIGU）日本地域活動センター
広島 ESD・ユネスコスクール研究会

協力

広島ユネスコ協会，宮島ユネスコ協会，東広島ユネスコ協会，尾道ユネスコ協会，因島ユネスコ協会，府中ユネスコ協会

後援

広島県教育委員会，広島市教育委員会，呉市教育委員会，竹原市教育委員会，三原市教育委員会，尾道市教育委員会，福山市教育委員会，府中市教育委員会，三次市教育委員会，庄原市教育委員会，大竹市教育委員会，東広島市教育委員会，廿日市市教育委員会，安芸高田市教育委員会，江田島市教育委員会，府中町教育委員会，海田町教育委員会，熊野町教育委員会，坂町教育委員会，安芸太田町教育委員会，北広島町教育委員会，大崎上島町教育委員会，世羅町教育委員会，神石高原町教育委員会，広島県連合小学校長会，広島県公立中学校長会，広島県公立高等学校長協会，広島県私立中学高等学校協会，ASPUnivNet（ユネスコスクール支援大学間ネットワーク），公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター（ACCU），日本ユネスコ協会連盟，中国新聞社，中国放送

助成

社会福祉法人広島県共同募金会



目 次

巻 頭 言	1
日 程	2
来賓紹介	3

広島県ユネスコ ESD 大賞表彰式

講 演	
演題：持続可能な社会の構築を目指して —— ESD の軌跡と今後の展望	
沖縄科学技術大学院大学 理事長補佐 浅井 孝司先生	

実践発表

○小学校

「ESD の視点に基づいた総合的な学習の時間」

尾道市立山波小学校 教諭 岡田 将平

○中学校

「ESD の視点で取り組む授業、その他領域での実践」

福山市立福山中学校 教諭 矢幡 愛

○高等学校・特別支援学校

「総合学習としての ESD」

英数学館高等学校 教諭 比羅岡 信子

○海外のユネスコスクール

“ESD in Michuhol Foreign Language High School”

韓国 ^{ミチュホル} 済州府外国語高等学校 教諭 ^{ノキョンヨン} 노균영

○広島大学ユネスコ委員会研修報告

「オランダ・ドイツ ESD 研修旅行・授業実践報告」

広島県立高陽高等学校 教諭 秋元 美輝

参考資料

広島県ユネスコスクール連絡協議会規約

広島県ユネスコスクール加盟校一覧

ユネスコスクールの申請手順

巻頭言

広島県ユネスコスクール連絡協議会
会長 松 井 太
(広島県立賀茂高等学校長)

「平成 28 年度 ESD 研修会」「広島県ユネスコ ESD 大賞表彰式」が開催されます。資源の有限性の下で加速するグローバル化の今、求められる教育の在り方の根本的な方向性を示すものが ESD であり、その意義は年々高まっているといえます。文部科学省が今年発表した「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ」によれば、「自然環境や資源の有限性を理解し、持続可能な社会づくりを実現していくことは我が国や各地域が直面する課題であるとともに、地球規模の課題でもある。子供たち一人一人が地域の将来などを自らの課題として捉え、そうした課題の解決に向けて自分たちができることを考え、多様な人々と協働し実践できるよう、我が国は持続可能な開発のための教育（ESD）に関するユネスコ世界会議のホスト国としても、先進的な役割を果たすことが求められる。」とあり、さらに「資質・能力の育成に向けた教育課程の課題」「社会に開かれた教育課程の実現」等の書面には、繰り返し次期学習指導要領における ESD の重要な位置づけに係る記載があります。

広島版『学びの変革』アクションプラン」のめざす理念は ESD の理念と整合性を持つものであり、今求められているグローバル人材の育成のための教育、その中心に ESD を位置付けることには大きな妥当性があると確信しております。単に経済的に有意な人材の育成のみを追求するのではなく、生命に対する畏敬の念、多様な他者に対する敬意、そしてつながり、こうした態度を育てる理念を浸透させる重要な教育的側面を ESD は担っていると確信しています。

今年、広島県ユネスコスクール連絡協議会に加え、広島大学 ESD ユネスココンソーシアム、広島県ユネスコ連絡協議会、IYGU 日本地域活動センター、広島 ESD・ユネスコスクール研究会の共催で、広島県ユネスコ ESD 大賞表彰式を午前に、ESD 研修会を午後に同日開催とし、より多様な方々や組織の関りの下で、中身の深い行事となることが期待できます。

御後援をいただいた広島県教育委員会、各市町教育委員会等に感謝申し上げます。表彰式や研修会で発表される各団体の方々、国外から参加いただいた韓国のミチュホル外国語高等学校の方々、ご講演をいただく浅井孝司先生も交えて、ESD について研究協議することで、ここ広島大学の一教室から、持続可能な社会を構築する担い手を育む新しい ESD の在りかたを発信し、多方面に伝えることができれば幸いです。

平成 28 年 12 月 10 日

日 程

時 間	プログラム
09:30～10:00	受付
10:00～10:15	開会行事 1. 主催者挨拶 (1) 広島県ユネスコスクール連絡協議会会長 広島県立賀茂高等学校長 松井 太 (2) 広島大学大学院教育学研究科長 小山 正孝 2. 来賓挨拶 広島県教育委員会事務局 3. 来賓紹介
10:15～12:20	広島県ユネスコ ESD 大賞 表彰式 1. 挨拶 広島県ユネスコ連絡協議会会長 亀井 章 2. 表彰式 (1) 審査委員長講評 (2) 各部門表彰 3. 表彰団体による実践発表
12:20～13:20	昼食休憩
13:20～14:20	基調講演 演 題：持続可能な社会の構築を目指して —ESD の軌跡と今後の展望 講演者：沖縄科学技術大学院大学 理事長補佐 浅井 孝司 先生
14:20～14:30	休憩
14:30～16:30	実践発表 1. 尾道市立山波小学校 教諭 岡田 将平 2. 福山市立福山中学校 教諭 矢幡 愛 3. 英数学館高等学校 教諭 比羅岡 信子 4. 韓国 ^{ミチュホル} 미추홀 外国語高等学校 教諭 노균영 5. 広島県立高陽高等学校 教諭 秋元 美輝 指導助言 指導助言者：公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター（ACCU） 教育協力部長 進藤 由美 先生
16:30～16:50	閉会行事 1. 全体総括 日本ユネスコ国内委員会委員・学校法人鶴学園広島工業大学監事 榎田 好一 先生 2. 閉会挨拶 広島県ユネスコスクール連絡協議会小学校部会長 広島市立幟町小学校長 島本 靖

来賓紹介

日本ユネスコ国内委員会委員・学校法人鶴学園広島工業大学監事	榎田 好一 様
広島県教育委員会事務局 教育部長	諸藤 孝則 様
広島県教育委員会事務局教育部 義務教育指導課 課長	中村 正博 様
広島県教育委員会事務局教育部 高校教育指導課 課長代理	谷岡 治 様
広島県教育委員会事務局教育部 義務教育指導課 主任指導主事	和田 愛 様
広島県教育委員会事務局教育部 義務教育指導課 指導主事	三浦 隆聖 様
東広島市教育委員会 教育長	津森 毅 様
社会福祉法人広島県共同募金会常務理事・事務局長	佐々木 忠 様
広島韓国教育院 院長	崔 喜喆 様

演 題 「持続可能な社会の構築を目指して」
—— ESD の軌跡と今後の展望

講 師 沖縄科学技術大学院大学 理事長補佐
浅井 孝司 先生

浅井 孝司 先生プロフィール

1956 年大阪府に生まれる。1980 年慶應義塾大学を卒業。1983 年から文部省勤務。外務省や日本学術振興会ワシントン事務所での勤務等を経て長岡技術科学大学庶務課長、国立科学博物館普及課長等を歴任。2001 年の文部科学省発足当時から国際統括官補佐としてユネスコ関係業務に従事。2006 年から 2 年間、在バングラデシュ日本大使館に出向し、両国間での教育交流に傾注。2008 年 8 月から 2013 年 3 月まで文部科学省国際協力政策室長として国際交流政策の策定や開発途上国への教育協力活動を推進。また、日本ユネスコ国内委員会事務局次長として国内外の持続可能な開発のための教育（ESD）普及に尽力。2013 年 4 月から 2014 年 12 月まで岡山市 ESD 世界会議推進局長として 2014 年秋に開催された岡山市における ESD 世界会議ステークホルダー会合の準備及び運営に携わる。2015 年 1 月から沖縄科学技術大学院大学理事長補佐。現在に至る。

研究業績

文部科学省（文部省時代も含む）において長年に渡りユネスコ関係業務に携わり、これまでに数多くのユネスコ関係国際会議（ユネスコ総会、執行委員会、教育大臣会議等）に出席し、国内外におけるユネスコ事業に貢献。

2002 年の国連ヨハネスブルクサミットに日本政府代表団の一員として参加以来「持続可能な開発のための教育（ESD）」の普及活動に従事。また、国内におけるユネスコスクールの増加・発展に尽力。

2013 年 1 月環境教育 Vol.22 No.2 に「国際 ESD ワークショップ Horizon 2105 における DESD 現況レビューとボン勧告」を報告。

2014 年 2 月日本教科教育学会誌第 36 巻 4 号に「ESD により教科教育の連携を図る」を発表。

2015 年 6 月日本国際理解教育学会第 25 回研究大会において「ユネスコ世界大会（Student Forum）の成果と意義—ユネスコの中の位置づけと未来性—」を発表。

所属学会等

日本国際理解教育学会会員
日本バングラデシュ協会会員

その他

環境社会検定合格

ESD の視点に基づいた総合的な学習の時間

<http://www.onomichi.ed.jp/samba-e/>

尾道市立山波小学校
教諭 岡田 将平

1 本校の概要

本校は、広島県東部尾道市の中でも福山市に近い場所に位置する。学校の周りには山や畑、海があり自然の豊かな地域である。全校児童228名、11学級の中規模校である。「自ら学び 心豊かに たくましく生きる 山波っ子の育成」を学校教育目標とし、めざす子ども像を「話を聞く子・伝える子」、「よく考え、学ぶ子」、「思いやりのある子」、「明るくたくましい子」として日々の教育活動を行っている。

本校のある山波町には、特色のある農業や工業、漁業、伝統文化が数多くある。農業では、果樹栽培がさかんで、桃、みかん、いちじくの畑が広がっている。工業では、造船業、漁業では、「山波の洲」でのアサリ漁が古くから行われている。伝統文化では、地域に神楽団があり、神楽団の方の指導で子ども神楽も行われている。「もちつき神事」という臼をかついで町中を練り歩き、神社でもちをつく祭りや、御輿のようなどんどに人を乗せて運動場を練り歩く「山波とんど」も、歴史ある行事である。

2 「総合的な学習の時間」の取組

本校の「総合的な学習の時間」の目標は次の通りである。

- ・自分の生活と地域のさまざまな事象とのかかわりについて探究することを通して、地域に対する親しみと愛着を高める。
- ・主体的に課題を見だし、仲間と協力して問題を解決することを通して、自己の生き方をふり返り、学び方やものの見方、考え方を身に付ける。

これらの目標に向けて取り組み、①問題解決能力、②コミュニケーション能力、③自己を振り返る力、の育成を目指している。

また、環境省から出ている、「地域からまなぶ・つなぐ『39のヒント』」の始めに書かれている「Think Globally, Act locally」、「地球規模で考えて地域で行動しよう」という合い言葉を、基本的な考え方とし、活動をしている。「ふるさとの『良さ』を実感する」ことが、郷土愛・アイデンティティの育成につながり、自分の言葉でふるさとの「良さ」を語ることでできる人材の育成につながると考えている。

同じく、環境省から出されている「7つのESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度」を年間計画の中に明記し、教員が意識して授業を行うようにしている。

＜ESDの視点に立った学習指導
で重視する能力・態度＞

1. 批判的に考える力
2. 未来像を予測して計画を立てる力
3. 多面的・総合的に考える力
4. コミュニケーションを行う力
5. 他者と協力する態度
6. つながり尊重する態度
7. 進んで参加する態度

3 各学年の活動

各学年の内容は次の通りである。

学年	内容	主な学習事項
第3学年	地域の農業 社会福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の農業の特徴 ・農業に携わる人々の思いや願い ・社会福祉とそれに携わる人々の思いや願い

第4学年	地域の伝統文化	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の伝統文化の特徴 ・伝統文化に携わる人々の思いや願い ・地域の文化遺産の歴史
第5学年	地域の漁業	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の漁業の特徴や課題 ・漁業に携わる人々の思いや願い
第6学年	将来の仕事 伝統行事	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の仕事（職業）の特徴 ・働いている人々の思いや願い ・伝統行事への参加及び携わる人々の思いや願い

どの学習課題でも共通しているのは、特色や課題を発見し、携わる人々の努力や工夫に気が付き、地域の人々の思いや願い、自分たちにできることは何かと思考を深めていることである。また、問題解決的な活動が発展的に繰り返されるように、課題設定、情報収集、整理・分析、まとめ・表現といった探究の過程を意識して学習活動を進めている。

4 実践事例

4年生「もちつき神事の由来を神楽で発表しよう」

まず、もちつき神事と山波の神木「バベの木」の謎について地域の方に教えていただく中で課題設定を行った。「バベの木」は吉備津彦の命が上陸した際に杖をさしたものが芽を出したといわれていることを知る。

次に、教えていただいた中で出てきた疑問やもっと知りたいと思ったことについて情報収集をし、グループで整理・分析をした。

もちつき神事もバベの木も吉備津彦の命に関連していることに気付いた。

まとめとして壁新聞を作ったり、もちつき神事やバベの木の由来を神楽の舞として表現したりした。

小単元	主な学習活動と内容
○もちつき神事・バベの木の謎を探ろう。	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方から話を聞く。 ・探究する課題を決める。
○もちつき神事・バベの木について情報を集めよう。	・インタビューや図書から情報を集める。
○集めた情報を整理・分析しよう。	・グループで集めた情報の整理・分析をする。
○わかったことをまとめよう。	・グループで壁新聞にまとめ、発表の準備をする。
○もちつき神事の由来を、神楽にして発表しよう。	<ul style="list-style-type: none"> ・グループでまとめたことの発表会をする。 ・神楽の台本を考え、演じる。

5年生「山波の洲の危機を救う方法を考えよう」

まず、山波の洲と尾道の漁業について地域の方に教えていただく中で課題設定を行った。山波の洲は、かつてはアサリがたくさんいたが、現在ではほとんどいなくなったことを知る。

次に、アサリ減少の原因について調べた。人間の乱獲、環境の変化、害敵の増加などが要因と考えられているが、はっきりとした原因はわかっていない。

他の地域で行われている取組を参考にし、それぞれの要因を解決するための方策をグループごとに考えた。討論をすることでさらに吟味し、市役所や漁協の方に考えた方策を提案した。

小単元	主な学習活動と内容
○山波の洲について知ろう。	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方から話を聞く。 ・探究する課題を決める。
○山波の洲・アサリについて情報を集めよう。	・インタビューや図書から情報を集める。
○集めた情報を整理・分析しよう。	・グループで集めた情報の整理・分析をする。
○わかったことをまとめよう。	・グループで壁新聞にまとめ、発表の準備をする。
○山波の洲にアサリを増やす方法を考えよう。	<ul style="list-style-type: none"> ・グループで考えたことを討論する。 ・市役所や漁協の方に提案する。

5 課題と今後の取組

課題としては、①今までゲストティーチャーとして招いていた方の高齢化、②教員の人事異動に伴う引き継ぎの困難さ、③学習のまとめとしての表現方法や場の少なさが挙げられる。「ESDの視点に基づいた総合的な学習の時間」が今後も持続可能な学習になるように、教員の研修を深めていく必要がある。

ESD の視点で取り組む授業，その他領域での実践 —— オーストラリア・韓国からの生徒を迎えて

<http://www.edu.city.fukuyama.hiroshima.jp/kou-ichifuku/>

福山市立福山中学校
教諭 矢幡 愛

1 ESD 教育について

本校では，未来を担う子どもたちがよりよい社会で暮らしていくために，地域課題・国際課題に対して自ら関心を持って関わり，他と協働しながら解決を目指そうとする姿勢（資質），またはそのための能力を育てる教育ととらえている。

2 福山市立福山中高等学校

本校は，広島県東部の人口 47 万人の中核都市，福山市に位置している。2004 年に中学校を設立し，県東部では初となる公立の併設型中高一貫教育校である。中高一貫校として，今年度で 13 年目となる。

本校は，学校教育目標「創造的な知性と豊かな心の調和的な発達を図り，国際社会に貢献できる人間を育成する」に基づいて設定した「生徒に付けたい三つの力」（「21 世紀に必要なコミュニケーション能力と探究能力」，「進路希望を実現する確かな学力」，「自己を高め社会に貢献する意欲・態度」）を踏まえ，地域社会とグローバル社会で活躍する人づくりを目指して地域と国際社会を支える人材の育成に取り組んできた。特に国際理解教育・グローバル人材育成教育に力を入れて国際交流活動を推進してきた。

【これまでの国際交流等の実績】

- ① オーストラリア姉妹校との交流：本校から豪州へ毎年度約 20 名が 2 週間の語学研修。豪州から本校へ 2 年に 1 度，約 30 名が 1 週間来校。
- ② 韓国の MOU 提携校との交流：韓国から本校へ毎年度約 15 名が 4 日間来校。
- ③ マレーシアの MOU 提携校との交流：高校 2 年次修学旅行において，提携校を半日訪問して交流。
- ④ ハワイ・マウイ郡との交流：本校からマウイへ，今年度から約 15 名が 10 日間の語学研修に参加。
- ⑤ 福山市の親善友好都市の中高生が来日する際，本校が学校訪問の受入。
- ⑥ 英語部を中心に模擬国連に取組み，平成 24 年度・27 年度・28 年度，全日本高校模擬国連に出場。

本校は本年 9 月にサステナブルスクールに認定された。このような過去 12 年間の実績を，ESD の観点で再整理した教育活動を行い，「次代の要請に則った『新たな教育内容』」を構築したいと考えている。

3 本校の ESD プロジェクト

本校ではこれまでの教育実践を整理し，「地域課題解決プロジェクト」「国際課題解決プロジェクト」および「(個人としての) 生き方・在り方探究プロジェクト」の 3 つのプロジェクトを中心に実施する。これらのプロジェクトによって，各生徒に持続可能な社会の担い手に必要な以下の知識，能力，態度，価値観を身につけさせることを目的とする。次期学習指導要領，高大接続改革の方向性を踏まえ，これまでの教育内容を整理し，今後求められる資質・能力を

身に付けるために、各教科・総合的な学習の時間・特別活動を創っていく。

◇能力面

- ① データや情報を分析・整理する力
- ② 知識・技能を創造的・探究的に活用・表現する力
- ③ 地域や国際社会の課題を発見し、解決する力

図1: 各プロジェクトの目的の重点

	能力面			資質面		
	①情報	②活用	③解決	④協働	⑤尊重	⑥挑戦
地域課題解決プロジェクト	○	○	○	○		
国際課題解決プロジェクト	○	○	○			○
生き方・在り方探究プロジェクト		○			○	○

◇資質面

- ④ 他者と協働する態度
- ⑤ 個人的・社会的責任を重んじ、自他を尊重する態度
- ⑥ 新しいことや困難なことに対するチャレンジ精神

4 オーストラリア姉妹校との交流

本校はオーストラリアのダウンランズカレッジと姉妹校の提携を結び、本校へ2年に一度、約30名が1週間来校している。姉妹校の生徒は、1週間生徒宅でホームステイをし、学校では日本の学校生活体験、茶道や琴などの日本文化体験とともに、本校生徒との交流授業を行う。

5 交流授業実践

本年度ダウンランズカレッジの生徒が来校した際の交流授業の一部は以下の通りである。

◇中学校

教科	目 標	交流授業の主な形態
1年生学活	スポーツフェスティバルへ協力して課題を乗り越えよう～	一斉交流, グループ
1年生音楽	琴のひき方を伝え、共に演奏を楽しもう	グループ
2年生英語	日本文化紹介を通して日本での滞在を楽しんでもらおう	グループ
3年生英語	都道府県紹介を通して日本の魅力を知ってもらおう	グループ
3年生理科	メンデルの法則が成り立つことを検証しよう	グループ

◇高等学校

教科	目 標	交流授業の主な形態
4年生英語	ディスカッションを通して相互理解を深めよう	グループ
5年生英語	ディスカッションを通して相互理解を深めよう	グループ
5年生地理	地球上で解決すべき課題について共に考えよう	グループ

◇本校生徒の感想

- 最初は全く話すことができませんでした。でも、3人4脚の練習をして、すごく速く走れるようになり、1番になってハイタッチもできたし、少しだけ英語で話すこともできました。日本人と違って、ほとんど人見知りをせず、とても親しみやすかったです。私も彼らのようにフレンドリーになりたいです。(1年)
- とてもやりきったというものが大きかった。一人ひとりが一生懸命取り組んだからこそ、一つのもので出来上がり、それを評価してもらえたのかなと思います。とても楽しかったです。(3年)
- いろんなダウンランズ生と話すことができとてもうれしかった。彼らは私たちから日本語を学んだし、私たちは彼らから英語を学んだ。国と国の壁を越えるのは難しいけど、言葉の壁を越えることができ楽しい時間を過ごせたと思う。とてもいい経験をさせてもらったと思う。(4年)
- 環境問題は、世界的なものなので、みんなでいろんな意見を出せてよかった。(6年)

6 課題と展望

今回の交流授業を通して、国を超えて人と人が協働するために必要な資質・能力について生徒が体験的に学ぶことができていた。中学校では、単発の国際交流にとどまっていることが今後の課題である。本校に整備されたウェブ会議システム等も利用しながら、協働して課題を解決するための国際交流を進めていくことを目指したい。

総合学習としてのESD

<http://www.eisu-ejs.ac.jp/high/>

英数学館高等学校
教諭 比羅岡 信子

英数学館中・高等学校は、2015年度にユネスコスクールに認定され、今年度で2年目となる。中高一貫の統一テーマのもとに、総合学習の時間に全生徒全教員で取り組みを行っている。本校では総合学習としての科目名を、中学校では「Global Studies Program(GSP)」, 高校では「Global Leaders Program(GLP)」と設定し、日本人としてのアイデンティティをベースに、ESDを通して地球市民として論理的に思考し行動することで、国際社会に貢献していく資質を持った生徒を育成することをねらいとしている。

まず、中高一貫の共通テーマを「食」と設定し、それに関わる学年別のテーマを定め、地元福山の伝統や文化をふまえた上で世界に目を向ける学習活動を、各学年ごとに計画して実施している。(※学年別テーマは表のとおり)

テーマ学習の内容として、①地域遺産教育(地域の伝統・文化、地域の人々とのコミュニケーションを通して、地域への関心を高め、地域の一員としての誇りを持つ)、②食の安全・健康(食の安全・健康、食品添加物への関心と知識を持つ)、

【学年別テーマ】

中1	(前期) 福山を知る	(後期) 福山の食
中2	(前期) 食と健康	(後期) 食の安全
中3	(前期) 食と環境	(後期) 食の未来
高1	(前期) 食文化(和食)	(後期) 食文化(諸国)
高2	(前期) 捕鯨を考える	(後期) TPPを考える
高3	(前期) 食糧危機を考える	(後期) 自分の役割を考える

③環境教育(自然環境に目を向けその継承の必要性に気づく)、国際理解(広く世界を知り、相手の文化や価値観の理解を進める。英語を使ったコミュニケーションを行う能力を身につける)、④ESD(福山を中心とした地域の持続可能な発展に貢献する)、という4つの項目を掲げた。

今回の報告では、私自身が昨年度高2の学年団として「GLP」を担当して行った高2の前期・後期、そして今年度進級した同じ学年の高3の前期までの取り組みの内容と生徒たちの変化の様子をお伝えしたい。

本校はユネスコスクールの認定を受けた当時、国際バカロレア(IB)の認定を受けるための準備も行っていった(2016年6月認定)。グローバル社会に適応していくための資質を育成するという点で、ESDとIBに共通点を見だし、問題解決型授業を実践し、問題発見能力や論理的思考力、批判的思考力、コミュニケーション能力を高めることを「GSP/GLP」のねらいとした。おりしも、広島県が『広島版「学びの変革」アクションプラン』を策定し、主体的な学びのある授業づくりを探究されていることにも影響を受け、また文科省が打ち出す高大接続改革(おもに大学入学者選抜の改革)も、本校

の GSP/GLP 実践の後押しをすることになった。

2015 年 4 月、高校 2 年生を対象に GLP「捕鯨を考える」という単元を始めることになった。大まかな授業の流れは、「グループごとにテーマを決める」→「グループで調べたり、まとめたりする」→「パワーポイントを使ってグループでプレゼンテーションをする」というもので、生徒の主体的な探究を通して問題発見・問題解決能力を育て、表現する力を養い、同時に協働を通してコミュニケーション力を身につけることをねらいとしたつもりだった。しかし、授業が始まると、早速導入部分から数々の問題点があられた。生徒の捕鯨に関する知識が少ないため、探究のテーマそのものが見つからなかったり、特定の生徒ばかりが調べ物をして他の生徒は手持ちぶさたになったり、探究に対してモチベーションが上がらず、生徒の不満の方が強くなってしまふありさまだった。調べ学習としてはすべての班がパワーポイントを使ってのプレゼンテーションを行うという形を整えることはできたが、当初のねらいの達成度には到達しなかった。

そこで後期の「TPP を考える」という単元では、導入部の生徒の興味付けのところから検討しなおした。何も予備知識のない状態で生徒に TPP に賛成か反対かのアンケートをとり、それが新聞社の行ったアンケート結果と異なることに気付かせ、常識を揺るがす作業を行った。そして単元の目標を「異なる立場の意見を理解した上で自分の意見を言葉で主張する」ということに定め、その方法としてディベートに取り組むことにした。まず TPP についての知識を取り入れるために、グループ活動による資料分析を行い、発表活動を行った。次にディベートのルールを理解するために、簡単なテーマで練習をし、最後に TPP の賛成派と反対派に分かれてディベートを行った。生徒の活動の状況は生き生きとしており、グループ内で役割分担を決め全員が参加し、自分の言葉で意見を主張しようという積極的な姿が見られた。

高校 3 年生前期では「食糧危機」というテーマで、ポスターセッションをすることにした。ポスターセッションにしたのは、聞く側の反応を間近に感じながら自分の言葉で説明し、質問に対して臨機応変の対応をしなければならないので、表現力やコミュニケーション力がより求められると考えたからである。各班ごとにテーマにそって調べ、1 枚のポスターにまとめる作業では、協働・主体性・計画性・論理性など多くの面で私たちの期待以上の活動が見られた。ポスターセッションの当日には、調べた内容を理解した上で、相手にわかってもらえるように説明している姿が見られた。

このような 1 年半の取り組みを通して、生徒自身がどのような力が身についたと考えているのかアンケートを実施したところ、国際的な視野で物事を捉えようとする姿勢(38%)「筋道を立てて物事を考えようとする姿勢(36%)」「文章をまとめる力(49%)」「人前で話す力(36%)」という項目の数値が高かった。また自己評価においては「最後まで投げ出さずやりきった(49%)」「グループの中で自分にできることを見つけて率先して取り組んだ(33%)」という項目の数値が高かったことから、生徒自身もある程度の達成感を得られたものと思われる。生徒の感想文の中には「ディベートやポスターセッションの経験は将来進学先や就職先で役に立つと思う」、「日本だけでなく世界基準で見ることによって様々な見方があることがわかった」、「調べる際にその情報が本当に正しいのか、使って人前で話して大丈夫なのかの判断がつけられるようになった」、「グループワークでは一人一人の性格、個性の違いが出ていておもしろく感じた」というものもあり、多くの生徒がそれぞれに意義を見いだしてくれたようだ。

次年度は次の学年が同じテーマで GSP/GLP に取り組むことになるが、それぞれの学年の経験やノウハウをいかに引継ぎ発展させていくかが課題となっている。現在、校内での情報の共有や意見交換を効果的に行う方法を試行錯誤しているところである。

ESD in Michuhol Foreign Language High School

<http://mch-j.icehs.kr/main.do>

ミチュホル
 韓国미추홀外国語高等学校
 ノキョンヨン
 教諭 노균영

1 Introduction

As the Education for Sustainable Development (ESD) has become worldwide, it has also been getting attention from schools in Korea with UNESCO schools doing the main role. For example, all the teachers in the Incheon Metropolitan City are supposed to take 15 hour teacher course for ESD and should apply ESD education in their curriculum at least once per semester regardless of their subjects. ESD is now not restricted to Social Studies subjects any more but has become mandatory in the whole educational section. Accordingly teachers' awareness of ESD has been enhanced and then a lot of school activities and events have started to focus on ESD. Also, school clubs focusing on ESD have been created in almost every school.

Hence, this report will introduce two main annual events related to sustainable development (SD): Liberal Arts Camp and the Multi-culture Understanding Day, three school clubs that are related to SD, and one subject (Advanced English Writing) that implemented ESD in its formal curriculum.

2 School Annual Events

(1) Liberal Arts Camp

Liberal Arts Camp is held annually to help students cultivate their humanistic literacy. This year the theme of this camp was SD. The camp was held for 15 hours from July 18th to 22nd, 2016. The number of participants is 144 students. The camp consisted of pre-activities such as lecture and book discussion to prepare the students for the discussion about SD and public forum debates where the students support for or against the propositions derived from the book discussion.

■ Contents

Date	Theme	Pre-activities (17:10~18:10)	Public Forum Debate (19:10~21:00)
July 18th (Mon)	What Is Sustainable Development?	- special lecture about SD by Kevin Lee	Writing a Constructive Speech
July 19th (Tue)	Environmental Problems & Human Species	Book Discussion: <i>The Earth Got Angry</i> by Nam Jongyoung	Public Forum Debate: Should we slow economic growth to protect the environment?
July 20th (Wed)	Economic Issues & Human Species	Book Discussion : <i>Huge Misunderstanding</i> by Choi Woon Hwa	Public Forum Debate: Should financial derivatives be regulated?
July 21th (Thu)	Social Issues & Human Species	Book Discussion : <i>The Working Poor in Korea - What makes people become poorer as they work harder</i> by Jeon Hong Kihye et al	Public Forum Debate: Can squatting be justified?
July 22th	Final Debate	Final Debate	Final Debate

(Fri)			
-------	--	--	--

The camp participants were required to read the books for discussion before the camp began. The book, *'The Earth Got Angry,'* deals with environmental issues such as global warming and endangered species in Korea, targeting young students. The second book *'Huge Misunderstanding'* talks about economic issues such as the morals in the world finance market. The third book focuses on social problems such as the working poor in Korea. After reading and discussing the assigned books, students participated in the public forum debate, which consists of constructive speech, 1st crossfire, rebuttal, 2nd crossfire, summary speech, grand crossfire, and final focus speech. In the debate the students were divided into two groups (pro and con) and argued for their points about all the debated topics related to the books. By participating in this camp, students are expected to raise their awareness of the importance of sustainable development and are encouraged to take a small step for SD individually.

(2) Multi-culture Understanding Day

Multi-culture Understanding Day is scheduled to be held in November 9th this year and the plan has not been confirmed yet. Thus, this report will introduce the activities of Multi-Culture Understanding day in 2015. The event was held from 15:00~17:00 on August 26th. All the students participated in the event based on their needs and interests. Since all the culture classes were planned and taught by the native teachers from the culture, the activities were authentic. Also, the opportunity to experience different culture played an important role in promoting students' respect for cultural diversity.

■ Contents

Activities	Contents
English Afternoon Tea	Part 1 – History and traditions of English afternoon tea Guided exploration of the history and traditions of English afternoon tea. Teacher also presents video clips, newspaper reports and images to support the material. Quiz on the content, so far. Part 2 – Tea-making methods and etiquette Guided presentation on tea-making and it's seriousness in the UK! Teacher presents and elicits answers from the students. Show video clips to support and entertain.
East Side Gallery In Berlin	Introduction of the East Side Gallery and group discussion of the students' interpretations of 5 of the most famous pieces of art from the Berlin Wall. - Design and draw / paint your own section of the Berlin Wall. - Include a political message or a message about peace. - It can be about any country around the world, but any writing must be in English or German. - Present your piece of the Berlin Wall to the class and explain its message.
American Calligraphy and Graffiti	Show examples of different styles of American calligraphy from different periods. Activity Students practice different styles of handwriting using stencils. Students practice different styles of handwriting on their own. Students create a poster of their favorite poem or piece of writing.
Exploring Scotland	Part 1 – Traditional Scottish Music/Dancing: 'Ceilidh' Part 2 – Traditional Scottish Clothing: Kilts and Tartans Part 3 – Scottish Food: Haggis, Shortbread and Tablet
Crepe and Petanque	- learn about crepes history - learn how to make crepes - learn how to play petanque - play petanque - make crepes and eat
Chinese Traditional Paper Craft and Knot Tying	-explain Chinese traditional knot tying -explain why red color is important to the Chinese people -present the examples of knot tying and art craft -design and make paper craft and knot tying

Summer Festival in Japan and Takoyaki	<ul style="list-style-type: none"> 事前準備：教室内を6テーブルに分け、ビニールシートを敷く。各テーブルに1セットずつコンロとたこやき板を設置。たこやきの生地をつくる調理器具とたこやき材料を準備する。
---------------------------------------	--

3 Student Clubs for ESD

Club Name	Number of Members	Aims & Activities
Girl Scout	32students	<ul style="list-style-type: none"> ○ Social Integration: the inclusion of marginalized group <ul style="list-style-type: none"> -regularly visit the special school for multi-cultural students nearby for language & culture exchange -translate Korean folk tales into the languages of multi-cultural students to help them understand Korean culture -teach teen culture to help them mingle with Korean teenagers and settle down in Korea smoothly and quickly
Connecting Classroom	20students	<ul style="list-style-type: none"> ○ Education for Diversity <ul style="list-style-type: none"> -make and display posters to introduce endangered ethnic groups and languages -make and distribute bookmarks written in endangered languages -teach vocabulary of endangered language and conduct O, X quiz ○ Education for World Peace <ul style="list-style-type: none"> -hold a seminar with Taiwanese students who visited Michuhol to come up with ideas for world peace -discuss the conflicts between China and Taiwan and the conflicts between South and North Korea and suggest ideas about how to solve the conflicts from their perspectives
Nuribom	18students	<ul style="list-style-type: none"> ○ Social Integration: the inclusion of marginalized group <ul style="list-style-type: none"> -organize a campaign to help the refugees from North Korea -organize a campaign to change public prejudice towards single mothers -make and distribute rainbow bracelets meaning diversity to promote the respect for diversity ○ Education for Ethical Economy <ul style="list-style-type: none"> -organize a campaign to raise awareness about child labor, exploitation problems in the production of chocolate, coffee etc ○ Education for World Peace <ul style="list-style-type: none"> -plant flowers and distribute them with peace messages to promote the importance of peace

4 Subject Curriculum: Advanced English Writing

The teachers for Advanced English Writing included ESD in the curriculum. To this end, they required the students to read *'What money can't buy?'* written by Michael J. Salden to give the students the opportunity to think about the morals in the market. As a culminating activity after covering the book in class, the students were required to write an essay about *'tradable pollution permits'* which is a part of the book and give a presentation based on their essays. The students who performed well were awarded. The followings are an excerpt from the essay, which argued for *'the tradable permits'* and the presentation materials.

■ Excerpt from Student Essay

But, is commodifying the right to pollute really bad? As a global citizen, it is our responsibility to maintain an equal society. Having a global market that deals with the right to pollute will contribute a lot to give fair opportunity for the developing countries to progress industrialization by allowing them to buy their own right to pollute. If there was no global market, the developing countries will stay under-developed and only developed countries will prosper even more as time passes because the developed countries already have technologies that can combat pollution which means they wouldn't be affected even if the selling and buying of right to pollute is restricted. However, such restriction can cause a fatal effect to developing countries since not being able to buy the right to pollute and halting environmental pollution may undermine economic growth and competitiveness of developing countries whose economics depends on natural resources. Global market can make the society to be more responsible rather than reinforcing irresponsible attitudes.

■ Student Presentation Material

The presentation material consists of 12 slides:

- Slide 1:** Tradable Pollution Permits. 2003 김병준, 2004 노병진
- Slide 2:** The distinction of between a fine and a fee. Graphic: Green attitude
- Slide 3:** The United States. Would have to include a trading scheme, allowing countries to buy and sell the right to pollute.
- Slide 4:** 'By government regulation'. A diamond diagram with 'fine' in the center, surrounded by 'Assessment or market price', 'Firm's cost of abatement', and 'Pollution level'.
- Slide 5:** Quotation: "Shame on us for speering mercury and asbestos into lakes and streams and for befouling the air with choking smog. It is not only hazardous to our health, it's no way to treat the earth."
- Slide 6:** To tax it. Tax on the work.
- Slide 7:** President George H. W. Bush. Diagram showing a factory emitting smoke, a license, and a tax.
- Slide 8:** President George H. W. Bush. Diagram showing multiple factories in a circular arrangement.
- Slide 9:** Results. Icon of a factory and a person with arms raised.
- Slide 10:** Kyoto Protocol. Icon of a person with a sign saying 'CHANGING!' and a dollar sign.
- Slide 11:** Global market in pollution permits. Outsourcing of an obligation.
- Slide 12:** IF WE ALLOW IT... Nature = Tool. Missing the Spirit of Cooperative Sanction.

5 Closing

As mentioned in the introduction, as the call for ESD has become worldwide, ESD has also been emphasized in all levels of Korean schools and my school is not exceptional. Other than the cases discussed so far in this report, many other school events and competitions are held focusing on SD in order to promote students' awareness about sustainability.

オランダ・ドイツ ESD 研修旅行・授業実践報告

<http://www.koyo-h.hiroshima-c.ed.jp/>

広島県立高陽高等学校
教諭 秋元 美輝

1 オランダ・ドイツ ESD 研修旅行報告

旅行日程 平成 28 年 8 月 18 日 (木) ~ 8 月 23 日 (火)
場所 オランダ：オランダ国立自然史博物館，デ・ファルク風車博物館，
アンネフランクの家，ゴッホ美術館
ドイツ：ドク・ツェントルム，ツェッペリンフェルト，ダッハウ強制
収容所跡，リーム地区，BMW 博物館

以上の施設を研修旅行でまわってきました。平和的分野や環境的分野，都市開発の分野などの ESD に役立つ教材を実際に自分の目でみて体験でき，とても充実した研修旅行でした。博物館や美術館はもちろんですが，まちのつくり方や公共交通機関の発達の仕方がとても興味深かったです。自転車専用道路や歩行者専用道路が自動車道路とは別にきちんと整備されていたり，パークアンドライドのシステムがあったり，路面電車とバスの停留所を併設させ利便性を高めるなど様々な工夫がみられ体感できたことが，とても良かったです。また，平和学習関連のアンネフランクの博物館やダッハウ収容所などの施設はとても印象に残りました。忘れてはならない歴史として受け継いでいく工夫もみられました。

2 研修旅行と授業実践の関連性

まず，今回研修旅行で訪れ，教材に使用したリーム地区について説明します。リーム地区は，ミュンヘン中心部から約 7 km の距離にあり，元々はミュンヘン空港がありました。滑走路の拡張が必要となり，現在ミュンヘン空港は郊外へ移転しました。空港跡地を再開発することになり，持続可能な開発が意識され，様々な工夫を取り入れた再開発がされています。例えば，公園や人工の丘や湖をつくることにより自然環境を整備しています。また，様々な世代や収入の人々が住むことができるように工夫されており，住宅手当受給者や年金生活者などが住むための住宅もつくっています。建物の形態も様々で，世帯人数が変わってもリーム地区の中で引っ越せば対応できるように住宅がつくられており，リーム地区内の世帯人数のバランスをとることができています。つまり，一人暮らし用の住宅もあれば，小さい子どもを育てる人たち用の住宅も，子どもが成長しても住むことができる住宅もあるため，リーム地区内での引っ越しで済むということです。日本で団地に住む人々は，団地が開発された時に同じ世代の人々が住み，全体的に高齢化していくという問題があります。しかし，このリーム地区では年代の偏りはなく，どの年代もバランスよく住んでいます。また，職住近接が意識されており，見本市を行うメッセや商業施設，ホテルなどがつくられており働く場所も確保されています。公共交通機関も複数はいっており，駅の近くに住民専用の駐車場を設け，まちの中には自動車で立ち入らないようにする環境面での工夫もみられます。こういった再開発のより良い事例・最新の事例を生徒に教えることで，日本のまちづくり・再開発を持続可能なものにしていくために必要な新しい視点や考えを生徒が取り入れることができればと思います教材を考えました。

3 授業実践

○授業名『広島の持続可能な開発のためのまちづくり・再開発を考えよう！

～ドイツのリーム地区を事例に～』

○教科・科目・学年：地理歴史・公民 地理B 3年《39人（男子18人，女子21人）》

○単元名：人口，村落・都市 都市・居住問題

○目標：広島のみちづくり・再開発に関して何が問題になっているか理解できる。

社会との共生や持続可能な開発という視点を取り入れると，つくるべき施設や環境が異なることを理解できる。

持続可能なまちづくり・再開発の新しい考えを提案することができる。

時限	展開の概要
1時限	発展途上国の都市問題についての授業をする。 先進国の都市問題についての授業をする。
2時限	テーマ『広島のみちづくり・再開発について考えよう！』 グループワーク《4人×9班，3人×1班》。1テーマ2班ずつ。 生徒は，①広島西飛行場，②旧市民球場跡地，③サッカースタジアム， ④広島駅前，⑤公共交通機関全般について，どのようなまちづくり・再開発があるか複数案考える。 発表を聞いている生徒は，どの案が良いか考える。
3時限	教員が，ドイツのリーム地区やオランダ・ドイツの公共交通機関がどのようにつくられているかを説明する。 生徒は，自分たちが考えた案が自然と社会との共生が可能か，持続可能な開発であるかを考え，各案を判断し，持続可能なものには○，持続可能でないものには×を書く。
4時限	前回の話し合いの続きをする。生徒は，各案を持続可能か可能でないか判断し，みんなの前で発表する。新たな案があれば加えて発表する。 発表を聞いた生徒は，自然と社会との共生が可能か，持続可能な開発であるかという視点をいれて良い案だと思ったものを考える。

4 まとめ

授業実践では，生徒が最初に良いと思ったまちづくり・再開発案と，リーム地区の事例を勉強した後，『自然と社会との共生』や『持続可能な開発』という視点を取り入れて良いと思ったまちづくり・再開発案は，全員一つ以上のテーマについて考え方が変化していました。生徒のアンケートからは，「最初に考えたことと持続可能という視点をいれて考えたことでは，後者の方が現実味があって難しかった。」「未来のことを考えないと新しくつくっても意味がない。」「緑を取り入れたまちづくりや大人から子どもまで幅広い層が楽しめることが大切だとわかった。」「採算のことも考えなければならぬ。」「ただがむしゃらに計画をたてるのではなく，持続可能であるかということや環境にやさしいかなど，色々な項目に配慮しながら計画することは大変なことだと思った。」「開発と環境維持の両立はとても難しいと思った。」などの意見が書かれていました。

私が実際に体感したことを教材にして生徒に話をすることができたため，生徒もより熱心に活動に取り組んでいたように感じます。また，別の素材を使って教材研究していきたいと思います。

広島県ユネスコスクール連絡協議会規約

(名称)

第1条 本会は、広島県ユネスコスクール連絡協議会（以下「協議会」という。）と称する。

(目的)

第2条 本協議会は、ユネスコスクールに参加する県内の学校が相互に連携・協力することにより、「持続可能な開発のための教育（ESD）」等の一層の推進を図り、もってユネスコスクールの理念の実現と本県教育の振興に寄与することを目的とする。

(事業)

第3条 本協議会は、前条の目的を達成するために、次の事業を行うものとする。

- (1) 本協議会を構成するユネスコスクールにおける教育研究・実践の成果の共有化と、ユネスコスクールの増加を図る事業
- (2) 「持続可能な開発のための教育（ESD）」に係る研究・実践の成果の普及を図る事業
- (3) その他、本協議会の目的の達成に資する事業

(構成)

第4条 本協議会は、広島県内の国・公・私立の小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校のユネスコスクールで構成し、校種ごとに部会をおく。

(役員)

第5条 協議会に、次の役員を置く。

- (1) 会長 1人
 - (2) 副会長 2人
 - (3) 理事 2人
 - (4) 各部会長 1人
 - (5) 会計監査 2人
- 2 会長は、高等学校及び特別支援学校部会から選出する。
 - 3 副会長は、小学校部会・中学校部会からそれぞれ選出する。
 - 4 会長・副会長は、部会長を兼ねる。
 - 5 理事は前会長及び次期会長予定者がこれを務める。
 - 6 監査は、事務局校の近隣の小学校・中学校からそれぞれ選出する。
 - 7 役員は、校長の職にある者でなければならない。

(職務)

第6条 役員の仕事は次のとおりとする。

- (1) 会長は、協議会を代表し、会務を統括する。
- (2) 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき又は会長が欠けたとき、その職務を代行する。
- (3) 理事は、協議会の会務を分担処理する。

(任期)

第7条 役員の任期は2年とする。ただし、補欠又は増員により選任された役員の任期は、前任者又は現任者の残任期間とする。

(役員会)

第8条 会長は、協議会の運営にかかる事項の協議を行うため、役員会を招集することができる。

(会費)

第9条 加盟校は、年額2,000円の会費を負担する。なお、年度途中に加盟した場合はその必要はない。

(事務局)

第10条 本協議会の目的を達成するために事務局を置き活動する。事務局は原則として会長校に置く。

事務局内には事務局長1名、事務局次長1名、会計1名、事務局員若干名を置く。

(その他)

第11条 この規約に定めるもののほか、協議会の運営に必要な事項は、会長が別に定める。

第12条 この会則に定めるもののほか、協議会の運営に必要な事項は、会長が定める。

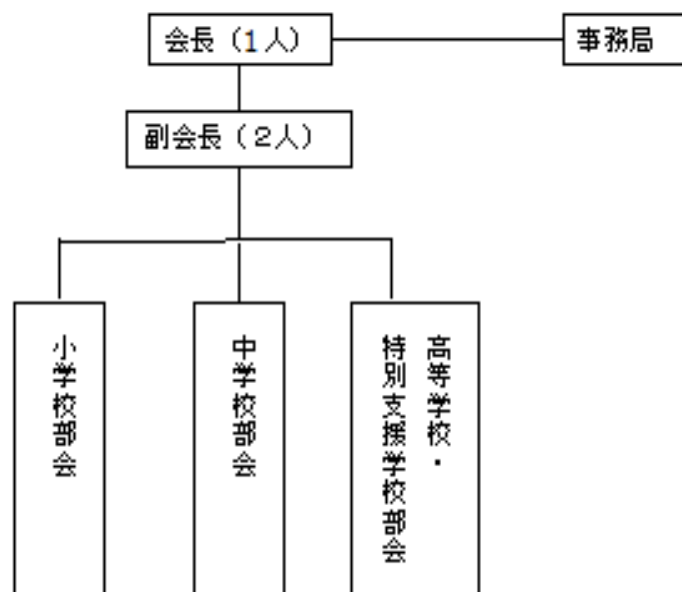
附 則

この規約は、平成23年3月26日から施行する。

平成25年7月10日改正

平成27年7月14日改正

組織図



ユネスコスクール加盟校一覧（広島県）

平成28年3月現在

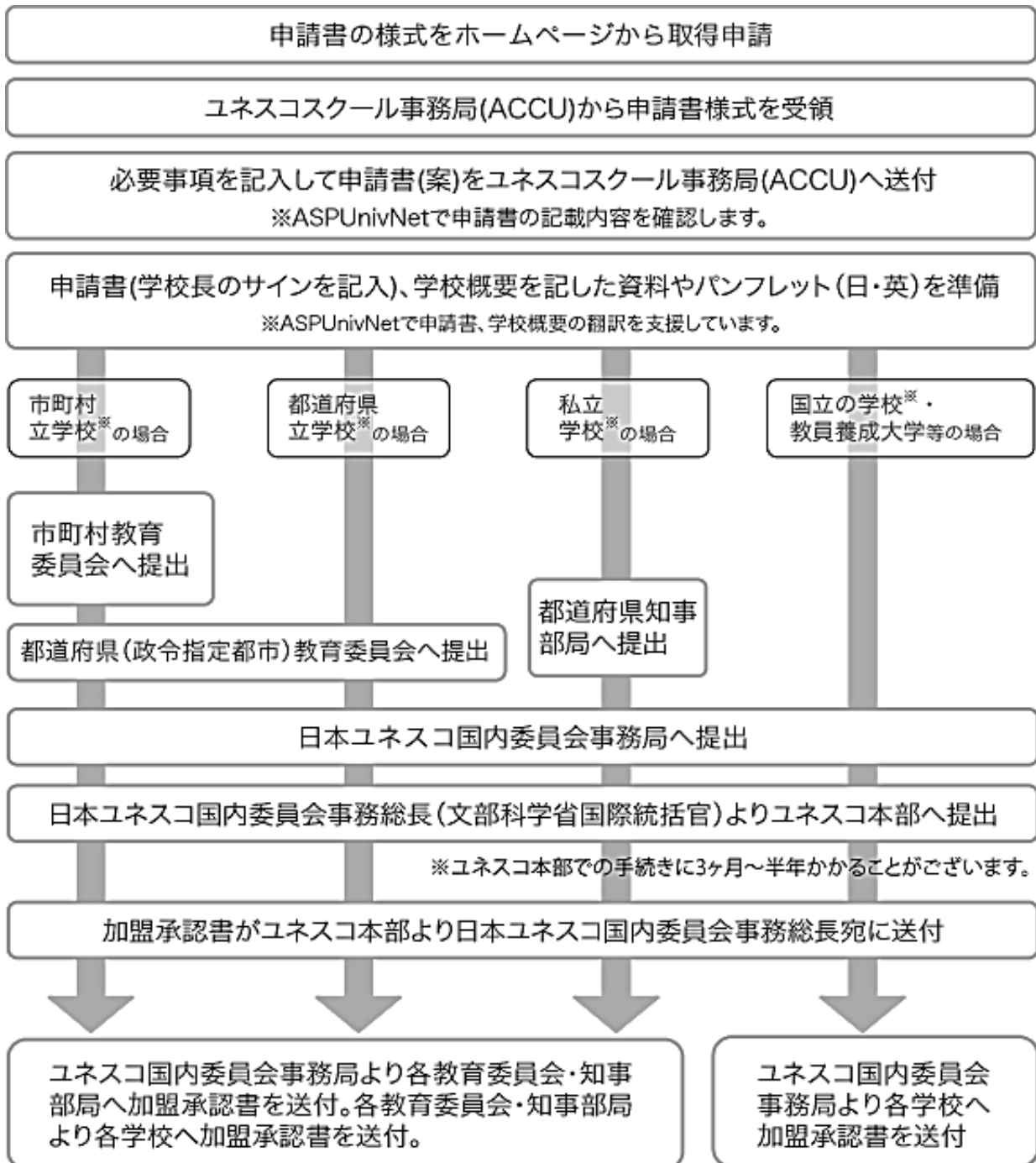
校種	設置	学 校 名	校種	設置	学 校 名
小	国	広島大学附属小学校	中	熊野町	熊野町立熊野東中学校
	国	広島大学附属東雲小学校		私	山陽女学園中等部
	広島市	広島市立幟町小学校		私	如水館中学校
	広島市	広島市立大林小学校		私	英数学館中学校
	広島市	広島市立畑賀小学校	高	国	広島大学附属高等学校
	広島市	広島市立戸坂小学校		県	県立広島国泰寺高等学校
	福山市	福山市立内海小学校		県	県立呉三津田高等学校
	福山市	福山市立駅家西小学校		県	県立尾道北高等学校
	大竹市	大竹市立栗谷小学校		県	県立福山誠之館高等学校
	東広島市	東広島市立入野小学校		県	県立賀茂高等学校
	廿日市市	廿日市市立宮島小学校		県	県立御調高等学校
	海田町	海田町立海田東小学校		県	県立府中高等学校
	熊野町	熊野町立熊野第一小学校		県	県立三次高等学校
	熊野町	熊野町立熊野第二小学校		県	県立安古市高等学校
	熊野町	熊野町立熊野第三小学校		県	県立大門高等学校
	熊野町	熊野町立熊野第四小学校		県	県立広島井口高等学校
	北広島町	北広島町立新庄小学校		県	県立安芸府中高等学校
	尾道市	尾道市立山波小学校		県	県立広島高等学校
	三次市	三次市立安田小学校		私	山陽女学園高等部
中	国	広島大学附属中学校	私	如水館高等学校	
	県	県立広島中学校	私	山陽高等学校	
	広島市	広島市立古田中学校	私	広陵高等学校	
	廿日市市	廿日市市立宮島中学校	私	英数学館高等学校	
	江田島市	江田島市立三高中学校	特支	県	県立西条特別支援学校
	熊野町	熊野町立熊野中学校			

ユネスコスクールの申請手順

平成27年3月1日現在

ユネスコの理念に沿った取組を継続的に実施している就学前教育・小学校・中学校・高等学校・技術学校・職業学校，教員養成系大学は，公私立を問わず，ユネスコスクールネットワークに加盟することができます。

また，ユネスコスクール加盟へのお問合せは，各市町教育委員会，若しくは，広島県教育委員会義務教育指導課が受け付けています。



※学校=小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、高等専門学校、特別支援学校、幼稚園を指す。